

微生物学	1年・前期	1単位 15時間	教授 田中 基晴
科目カテゴリー	看護の対象の理解	科目ナンバリング	32210281

1. 授業のねらい・概要

微生物は人間にとって発酵食品や各種産業や、そして環境改善などに利用されている反面、人間や動物、植物に感染し、病気を引き起こす微生物がいる。結核、マラリアなどが再び増加し、エイズなど新病原体による感染症が出現した。また、インフルエンザは毎年のように流行し、最近では新型コロナウイルスの感染拡大があった。このように時代が移り変わっても感染症で亡くなる方は後を絶ちません。その原因となる病原微生物の特徴や症状を知ることが患者を救う上で看護師にとって極めて重要です。本講座では微生物の種類と特徴、感染してどのような症状を呈するのかを学ぶ。すなわち、学生が患者に正しく接し院内感染を防ぐために、病原性微生物の特徴、症状について知り、患者対処および蔓延の防御に繋がる微生物学の基礎を身につけることを目的とする。

2. 学修の到達目標

1. 学生が微生物とは何か、どのような種類の微生物が存在するのかを理解し正誤の文章を選択することができる。(D-2)
2. 学生が 感染源、感染経路について理解し説明することができる。(D-2)
3. 学生が宿主の臓器・組織別にみた種々の感染症と病原体について特徴と感染後の症状について理解し正誤の文章を選択することができる。(D-2)
4. 学生が宿主の因子が影響する種々の感染症と病原体について特徴と感染後の症状について理解し正誤の文章を選択することができる。(D-2)
5. 学生が感染・発症予防と行政の対応について理解し正誤の文章を選択することができる。(D-2)
6. 学生が感染症の検査・治療について理解し正誤の文章を選択することができる。(D-2)

3. 授業の進め方

基本的には教科書を中心にして講義を進める。必要に応じて参考資料のプリントを配布する。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、小テストを6回目の授業後半に実施し、次回の授業に返却して教員が正解を解説する。

「学んだことを確認し、次へつなげる」ことを目的とする。

【ICT活用の有無】

ICT活用による授業は実施しない。

4. 授業計画（講義）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	微生物，医動物とは何か？	講義	予習：教科書の「臨床微生物・医動物」の「1 微生物とは」（p3~p34）を事前に読んで、わからない部分をマークする。 復習：授業で配布したプリント及び教科書を用いて、授業内容を振り返る。	田中基晴
2	微生物の感染と感染予防に		予習：上記教科書の「2 感染症の分類と感染防御機構」（p38~50）を事前に読んで、わからない部分をマークする。	田中

	ついて		復習：授業で配布したプリント及び教科書を用いて，授業内容を振り返る。	
3	宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体 (I)	講義	<p>予習：上記教科書の「宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体」の「1 呼吸器感染症， 2 結核， 3 消化器感染症 4 肝炎」(p52~p96) 部分を事前に読んで，わからない部分をマークする。</p> <p>復習：授業画像プリント及び教科書を用いて，授業内容を振り返る。</p>	田中
4	宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体 (II)	講義	<p>予習：上記教科書の「宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体」の「5 尿路感染症， 6 性感染症， 7 皮膚・粘膜の感染症， 8 皮膚に発疹が出現するウイルス感染症とリケッチャ感染症， 9 脳・神経系感染症」(p97~p133) の部分を事前に読んで，わからない部分をマークする。</p> <p>復習：授業画像プリント及び教科書を用いて，授業内容を振り返る。</p>	田中
5	宿主の因子が影響する感染症と病原体 (I)	講義	<p>予習：上記教科書の「宿主の因子が影響する感染症と病原体」の「1 人獣共通感染症， 2 寄生虫感染症， 3 小児の感染症， 4 母子感染， 5 高齢者の感染症」(p136~p183) の部分を事前に読んで，わからない部分をマークする。</p> <p>復習：授業画像プリント及び教科書を用いて，授業内容を振り返る。</p>	田中
6	宿主の因子が影響する感染症と病原体 (II)	講義	<p>予習：上記教科書の「宿主の因子が影響する感染症と病原体」の「6 日和見感染症， 7 移植患者と感染症， 8 手術創・外傷と感染症， 9 血管内カテーテル関連血流感染症， 10 薬剤耐性菌」(p183~p217) の部分を事前に読んで，わからない部分をマークする。</p> <p>復習：授業画像プリント及び教科書を用いて，授業内容を振り返る。</p>	田中
7	感染・発症予防と行政の対応	講義 小テスト	<p>予習：上記教科書の「感染・発症予防と行政の対応」(p220~p244) を事前に読んで，わからない部分をマークする。</p> <p>復習：授業画像プリント及び教科書を用いて，授業内容を振り返る。</p>	田中
			既に配布したプリントの「感染・発症予防と行政の対応」を事前に読んで，	

8	感染症の検査・治療	講義	わからない部分をマークする。 復習：授業画像プリント及び教科書を用いて、授業内容を振り返る。 小テストの間違った箇所を中心によく復習し、同じ間違いはしないレベルに達する。	田中
9	まとめ (重篤な症状を呈する感染症についての知識の確認)	講義 (授業時間の半分) 期末試験 (授業時間の半分)	予習：配布済のプリントと既習の教科書を熟読しておくこと。 復習：授業画像プリント及び教科書を用いて、授業内容を振り返る。 定期試験の正解を見て、間違った箇所を中心に復習する。	田中

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上のコマ数出席者）70%，6回目授業最後に実施する小テスト20%，受講態度10%，として総合的に評価する。成績評価は、「2. 学修の到達目標」に示した評価観点毎に、ルーブリック評価する。評価基準の詳細（ルーブリック）は、第1回講義内に別途説明する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：ナースィング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進③ 臨床微生物・医動物 メディカ出版

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

微生物学は臨床現場において重要となるので、最低90分の予習の中であらかじめ、授業前に必ず一度は予定範囲を読んでおき、わからない部分をマークし授業でその部分を集中聴講する。また、復習(90分以上)は、その日のうちに行い、授業で配布したプリント及び教科書を用いて授業内容を振り返り、小テストに備える。また、小テストは重要事項を試験しているので、小テストの後はよく復習して、定期試験に備えること。

8. 受講上の留意事項

遅刻、欠席および授業中の私語、スマホ操作・閲覧等、授業と関係ない行動は、参加態度として評価対象とするので注意すること。また、不明点、理解できない点があれば、遠慮せず、質問すること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

当該授業科目の重要課題についてまとめたものは、単元毎配布し、空欄を学生に埋めてもらう。正解は後に教員が解説する。また、小テストは終了後に正解を授業内に教員が解説する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必須科目である。(履修要項・学生便覧参照)

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

製薬会社での新薬開発経験を活かして講義を行う。